

令和8年度 第1回瑞浪市市之瀬廣太記念美術館協議会 会議録

日 時：令和8年6月23日（火）13時～14時30分

会 場：瑞浪市役所 2階第1会議室

出席者 <協議会委員> 小栗 茂 （学識経験のある者）
加納 礼爾（学識経験のある者）
柴田 増三（社会教育関係者）
藤井 志保（学校教育関係者）
早川 美幸（家庭教育の向上に資する活動を行う者）
<事務局> 水野 光二（市長）・水野 義康（館長）
河野 和弘

1 委嘱状交付

市長より委嘱状を交付した。

2 あいさつ

市長より開会の挨拶がなされた（内容は省略）。

3 会長選出

瑞浪市市之瀬廣太記念美術館の設置及び管理に関する条例第11条第6項（互選）により、柴田委員が会長を務めることとなった。

4 報告事項

令和7年度事業報告について

1）普及活動の充実

・①企画展の開催

委 員：没入型の展覧会について、普段体験する機会のない展示だったので開催できたことはよかったと思う。展示スペースや予算に制約がある中、委託業者に頑張ってもらった部分はあるかと思うが、ぜひ反省点等を活かして、今後も第二弾を開催するなど発展させてほしいと考える。今後も開催する予定ないし計画はあるか。

事務局：多くの方に来場いただき、好評であったため、第二弾の実施も検討していきたい。

委 員：会期中の来場者数について、子どもたちが相当数来場していたと記憶している。会期中の大人と小人の来場者数の内訳をうかがいたい。

事務局：確認し、後日報告する。

（後日、大人366名、小人〔小中高生〕163名であることを報告した。）

委 員：反省点としては、椅子などの休憩できるスペースが少なかったこと

をあげたい。会場の広さに制約があったためであるが、多くの来場者が長時間立ち見する状況であったため、余裕を持たせた会場にして、座りながら落ち着いて鑑賞できることが望ましい。

事務局：今後実施する場合は、解決できるよう努めたい。

委員：明世小学校児童の作品展示発表会について、授業で制作した作品を学芸員の指導の下で展示することは、座学にとどまらない取り組みなので大変良いと思う。また、学芸員の仕事に触れ、直接話を聞くことは、児童のキャリア教育にもつながる。児童自身が将来を考え、就きたい仕事などに向かって挑戦する気持ちを育むよい機会だと思う。今後も継続してほしい。

事務局：令和８年度も実施を予定しているため、明世小学校と準備、調整等を行う。

・②講座の開催

委員：講座の開催は、作家の手仕事に間近に触れることのできる貴重な経験となるため、今後も実施してほしい。また、実施内容はマンネリ化させず、発展していくことを期待したい。

事務局：承知した。実施内容については、今後も検討する。

5 協議事項

令和８年度事業計画について

1) 普及活動の充実

・①企画展の開催

委員：加納氏は中央公民館講座の陶芸教室で講師を務められたこともあり、受講生から大変好評だった。この企画展でぜひ準備を進めてほしい。

委員：次年度以降の企画展の内容は決まっているか。決定していなくても、検討中または交渉中の作家がいれば協議会でぜひ示してほしい。示してもらえれば、委員として助言できることがあるかもしれない。年度内に実施予定の計画のみ協議するのではなく、例えば交渉中の企画も含めて３年間分の計画を協議できればよいと思う。

事務局：承知した。企画展の案が未定または検討段階の年度についても、可能な限り協議会でお示しできるように努める。

委員：事務局から、明世小学校児童の作品展示発表会も昨年度に引き続き実施する予定と説明があった。令和５年度から継続して実施されており、キャリア教育につながる大変良い取り組みだと思うものの、実施に向けた調整や準備が、毎回学校の図工主任と数人の限られた教員のみでしか共有されていない点は改善し

たい。学校の人事異動によっては、図工主任がいなくなる場合も想定される。美術館として今後も継続して実施するつもりであれば、担当者同士で準備を進めるのではなく、担当者がいなくても実施できる持続可能な方法を美術館と学校の双方で考えていくべきだと思う。例えば、恒例行事として美術館長名及び校長名で依頼文書を作成するなど、組織として取り組む形を明確にすることが望ましい。

事務局：今後も引き続き学校とよく相談しながら、教員の負担にならない持続可能な実施方法を検討する。

・②講座の開催

委員：講座の内容が昨年度と同じ内容となっているため、マンネリとなる前に新たな次の講座メニューを考えておく必要があると思う。また、現在の講座は制作後にすぐ自宅へ持って帰ることがメリットとしてあげられるが、一定期間美術館で展示してはどうか。

委員：課題として、遠方から来る受講者は展示できるか、また制作を講座の時間内に終わることができなかった受講者はどう対応するか等があげられる。講座の時間内に終わられなかった受講者の中には、持ち帰って完成させるという方もいたと思う。

委員：展示も含めた作品制作となれば、講師となる作家にも相談すべきである。指導方法や作品に求める完成度が変わるかもしれないため、作家の意向も確認してこれらの課題を検討してほしい。

事務局：承知した。

6 その他

(特に意見はなし)

【散会】